

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 社会福祉原論 I				担当教員 氏名: 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義について理解する ・社会福祉の対象と援助の体系および方法論について理解する ・社会福祉固有の専門性と倫理について理解する 					社会福祉 歴史 制度	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力		社会福祉の理念と必要性について理解することができる				
C 論理的思考力		社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる				
D 問題解決力		理論を活用して実践に結びつける力を身につける				
F チームワーク・リーダーシップ		先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する				
G 倫理観		政策決定における倫理観の必要性に気づく				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:その他とは授業への姿勢、態度のことである						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:レポート返却時のコメント等によってアドバイスをを行う						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①わが国における福祉制度の概念と理念 ②福祉政策の概念と理念 ③福祉制度と施策の関係 ④福祉政策と政治の関係 ⑤福祉政策の主体と対象 ⑥福祉の原理をめぐる理論 ⑦福祉の原理をめぐる哲学と倫理 ⑧前近代社会と福祉 ⑨近代社会と福祉 ⑩現代社会と福祉 I (欧米) ⑪現代社会と福祉 II (日本) ⑫需要とニーズの概念 ⑬資源の概念 ⑭福祉政策と社会問題 ⑮まとめ				<ul style="list-style-type: none"> ・政策の意味や種類のうち、福祉に関するものについて調べる ・福祉発達史や篤志家に焦点をあて、調べてみることで理解を深める ・社会問題についてピックアップし、福祉政策との関連性について把握する ・関連する書籍を読む 		
使用テキスト:現代社会と福祉第4版 著者:川村匡由 島津淳 佐橋克彦 西崎緑 出版社:kumi				その他参考文献など:「厚生労働白書」厚生労働省		

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：社会福祉原論Ⅱ				担当教員氏名：鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念と意義について理解する ・社会福祉の対象と援助の体系および方法論について理解する ・社会福祉固有の専門性と倫理について理解する 					社会福祉 歴史 制度	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10		
A 知識・理解力	社会福祉の理念と必要性について理解することができる					
C 論理的思考力	社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる					
D 問題解決力	理論を活用して実践に結びつける力を身につける					
F チームワーク・リーダーシップ	先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する					
G 倫理観	政策決定における倫理観の必要性に気づく					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：その他とは授業への姿勢、態度のことである						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①福祉政策の現代的課題				<ul style="list-style-type: none"> ・政策の意味や種類のうち、福祉に関するものについて調べる ・福祉発達史や篤志家に焦点をあて、調べてみることで理解を深める ・社会問題についてピックアップし、福祉政策との関連性について把握する ・関連する書籍を読む ・教育、住宅、労働など多岐に渡る政策について把握する 		
②福祉政策の論点Ⅰ						
③福祉政策の論点Ⅱ						
④福祉政策における政府の役割						
⑤福祉政策における市場の役割						
⑥福祉政策における国民の役割						
⑦福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価						
⑧福祉供給部門						
⑨福祉供給過程						
⑩福祉利用過程						
⑪福祉政策と教育政策						
⑫福祉政策と住宅政策						
⑬福祉政策と労働政策						
⑭相談援助と福祉政策の関係						
⑮まとめ						
使用テキスト：現代社会と福祉第4版 ※原論Ⅰのものを使用する 著者：川村匡由 島津淳 佐橋克彦 西崎緑 出版社：kumi				その他参考文献など：適時紹介する。「厚生労働白書」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：社会調査の基礎				担当教員氏名：宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
福祉専門職として身につけておくべき利用者や地域のニーズを把握し課題を明確化するための手法である社会調査の基本的な知識と技術を習得し、また、調査における倫理や個人情報保護についても理解する。					社会調査、倫理と個人情報、質問紙、卒業研究	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		社会調査の基本的な知識と調査における倫理や個人情報保護について理解することができる。				
B 専門的技術		社会調査の基本的な技術を習得する。				
C 論理的思考力		社会調査に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
D 問題解決力		社会調査法を用いて、利用者や地域の課題を解決する方法を理解することができる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： %	発表： 20 %	実技： %	その他： 30 %		
特記事項： 「その他：30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、社会調査を実際に行い、授業において調査結果の発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第7回目と第15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション～社会調査の意義と目的～				【事前】テキスト第1章を読む 【事後】①の復習		
②社会調査の対象と統計法の概要				【事前】テキスト第2章を読む 【事後】②の復習		
③社会調査における倫理と個人情報保護				【事前】テキスト第5章を読む 【事後】③の復習		
④量的調査の方法①～全数調査と標本調査～				【事前】テキスト第3章第1節1を読む 【事後】④の復習		
⑤量的調査の方法②～横断調査と縦断調査～				【事前】テキスト第3章第1節2を読む 【事後】⑤の復習		
⑥量的調査の方法③～自計式調査と他計式調査～				【事前】テキスト第3章第1節3を読む 【事後】⑥の復習		
⑦量的調査の方法④～測定～・中間まとめ				【事前】①～⑥の復習		
⑧量的調査の方法⑤～質問紙の作成方法と留意点～				【事前】テキスト第3章第2節を読む 【事後】⑧の復習		
⑨量的調査の方法⑥～調査票の配布と回収～				【事前】テキスト第3章第3節を読む 【事後】⑨の復習		
⑩量的調査の方法⑦～調査の集計と分析～				【事前】テキスト第3章第4節を読む 【事後】⑩の復習		
⑪質的調査の方法①～観察法～				【事前】テキスト第4章第1節を読む 【事後】⑪の復習		
⑫質的調査の方法②～面接法～				【事前】テキスト第4章第2～5節を読む 【事後】⑫の復習		
⑬質的調査の方法③～記録の方法と留意点～				【事前】テキスト第4章第6・7節を読む 【事後】⑬の復習		
⑭質的調査の方法④～データの整理と分析～				【事前】テキスト第6章を読む 【事後】⑭の復習		
⑮社会調査の実施にあたってのITの活用方法・まとめ				【事前】⑧～⑭の復習		
使用テキスト： 新・社会福祉士養成講座 第5巻「社会調査の基礎」中央法規				その他参考文献など： 「社会調査」のウソ・リサーチ・リテラシーのすすめ 谷岡一郎 著 文藝春秋		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。また、2年生にとっては卒業研究に必要な知識と技術であるため、できるだけ多くの学生の受講を期待します。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年	
科目名：社会福祉援助技術論Ⅴ					担当教員 氏名：清水 剛志	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
・事例検討をとおして、ソーシャルワークスキルを向上させる。						ソーシャルワークスキル 権利擁護 ネットワーキング ストレンクス 機能的アプローチ
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			ソーシャルワーク技術について知識を深めることができる			
B 専門的技術			実践現場で活かせる援助技術を身につける			
C 論理的思考力			対象を多角的にとらえ、リアルニーズの把握と社会資源に結びつける			
D 問題解決力			事例検討をとおしてソーシャルワークの実践力を身につける			
G 倫理観			相談援助職の専門的役割や使命とともに倫理綱領を理解し実践活動ができる			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 40 %	発表： 30 %	実技試験： %	その他： 30 %		
特記事項：その他は、授業出席、態度を評価する。(事例検討後の感想や気づき等のレポート提出も含む。)						
レポート・発表の実施時期：第8回授業で中間テスト(レポート形式)、第15回で期末テスト(レポート形式)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価をして返還						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①オリエンテーション ソーシャルワークの機能について					【事後】①の復習	
②事例検討：ケアマネジメントの活用 スクールソーシャルワーク					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
③事例検討：ケアマネジメントの活用 スクールソーシャルワーク					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
④事例検討：ネットワーキングの活用 触法障害者への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑤事例検討：ネットワーキングの活用 触法障害者への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑥事例検討：社会資源の利用・開発・調整の活用 高齢者の孤独死防止への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑦事例検討：社会資源の利用・開発・調整の活用 高齢者の孤独死防止への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑧中間振り返り						
⑨事例検討：システム論的アプローチの活用 リストラにあった中高年と家族への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑩事例検討：システム論的アプローチの活用 リストラにあった中高年と家族への支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑪事例検討：ストレンクスアプローチの活用 知的障害者への就労支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑫事例検討：ストレンクスアプローチの活用 知的障害者への就労支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑬事例検討：機能的アプローチの活用 身体障害者への生活支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑭事例検討：機能的アプローチの活用 身体障害者への生活支援					【事後】事例に関する感想や気づき等をまとめて提出する。	
⑮まとめ						
使用テキスト：事例検討以外では、既存テキスト(相談援助の理論と方法Ⅱ 中央法規)を使う場合があります。					その他参考文献など： 倫理綱領(日本社会福祉士会)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：社会福祉援助技術論VI				担当教員 氏名：松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
ソーシャルワーカー(社会福祉士)の業務として相談援助の理論と、具体的な方法を事例を用いて学ぶ。対象を細分化して捉えるのではなく、個人、家族、小集団・組織、地域など、どのような対象であっても、対応できる相談援助の方法を理解する。					相談援助の対象、ジェネラリストソーシャルワーク、ケアマネジメント、社会資源、アウトリーチ、多様性、マイノリティ	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			1年次に学んだ相談援助の理論と方法の理解をさらに深める。			
B 専門的技術			実践場面で活かせる相談援助の専門的技術を身につける。			
C 論理的思考力			対象を全体的・包括的に捉え、整理・分析しニーズを理解できる。			
D 問題解決力			相談場면을複眼的にとらえ、社会的資源を活用できる。			
G 倫理観			相談場面に必要な倫理を理解する。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 60 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：その他として、授業に対する参加度や態度を含む。 また、レポートは毎回の感想(出席カード)を含む。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートにコメント・評価をつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション、相談援助における対象の理解				テキスト1章を読む		
②ソーシャルワークのグローバル定義				テキスト1章を読む		
③ソーシャルワークの変遷				テキスト6章を読む		
④ジェネラリストソーシャルワーク				テキスト6章を読む		
⑤ポストモダンのアプローチ				テキスト8章を読む		
⑥ケアマネジメント①				テキスト2章を読む		
⑦ケアマネジメント②				テキスト2章を読む		
⑧グループを活用した相談援助				テキスト3章を読む		
⑨コーディネーションとネットワーキング				テキスト4章を読む		
⑩相談援助における社会資源①				テキスト5章を読む		
⑪相談援助における社会資源②				テキスト5章を読む		
⑫アウトリーチ、ソーシャルアクション				⑫の予習		
⑬多様性の尊重(マイノリティへの支援)				⑬の予習		
⑭スーパービジョンとコンサルテーション				テキスト9章を読む		
⑮まとめと振り返り				プリントを見直す		
使用テキスト： 新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規				その他参考文献など： 『社会福祉の援助観』狭間香代子		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： テキストを中心に授業を進めます。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 地域福祉論 I				担当教員 氏名： 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門必修科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
地域福祉は、現在日本の社会福祉において重要視されている分野である。新しい地域福祉の展開、地域ケアと自立支援のための方法論(コミュニティワーク)や最近の地域福祉の動向と課題を学ぶ。						コミュニティワーク、コミュニティケア、アドボカシー、ソーシャルアクション
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。			
B 専門的技術			コミュニティワークを実践できる能力を習得する。			
C 論理的思考力			社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。			
D 問題解決力			地域の問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
G 倫理観			常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %		レポート： 60 %		発表： %	実技試験： %	その他： 0 %
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 振り返りレポート、講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： レポートはABCD評価、試験は点数を付けて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①新しい社会福祉システム I 地域福祉の発展過程 行政と住民の協働				【事後】レポートの提出		
②新しい社会福祉システム II 福祉サービスシステム 福祉コミュニティ				【事前・事後】レポートの提出		
③地域福祉の基本的な考え方 I 理論の発展と地域自立生活支援				【事前・事後】レポートの提出		
④地域福祉の基本的な考え方 II 福祉圏域と組織の有機的連携				【事前・事後】レポートの提出		
⑤地域福祉の主体と福祉教育 I 地域福祉と福祉教育の歩み				【事前・事後】レポートの提出		
⑥地域福祉の主体と福祉教育 II 福祉教育の概念と内容				【事前・事後】レポートの提出		
⑦行政組織と民間組織の役割と実際 I 地方分権化と地域福祉計画				【事前・事後】レポートの提出		
⑧行政組織と民間組織の役割と実際 II 社会福祉協議会・社会福祉法人				【事前・事後】レポートの提出		
⑨行政組織と民間組織の役割と実際 III NPO・民生委員・保護司				【事前・事後】レポートの提出		
⑩行政組織と民間組織の役割と実際 IV 福祉コミュニティビジネス				【事前・事後】レポートの提出		
⑪コミュニティワーク I 考え方・展開・方法				【事前・事後】レポートの提出		
⑫コミュニティワーク II チームアプローチ・住民とまちづくり				【事前・事後】レポートの提出		
⑬住民の参加と方法 I 住民参加の意義				【事前・事後】レポートの提出		
⑭住民の参加と方法 II 住民の代表性と参加方法				【事前・事後】レポートの提出		
⑮まとめと振り返り						
使用テキスト：「新・社会福祉士養成講座第9巻 地域福祉の理論と方法-地域福祉論」中央法規				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布資料とテキストを中心にして、講義を進めます。疑問点や分からないこと等はいつでも講師に相談してください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2年

科目名： 地域福祉論Ⅱ				担当教員 氏名： 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	2年次	後期	専門必修科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要： 地域福祉論Ⅰに引き続いて、コミュニティワークを学ぶ。現在日本の社会福祉において重要視されている分野である。新しい地域福祉の展開、地域ケアと自立支援のための方法論(コミュニティワーク)や最近の地域福祉の動向と課題を学ぶ						キーワード コミュニティワーク、コミュニティケア、アドボカシー、ソーシャルアクション
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。			
B 専門的技術			コミュニティワークを実践できる能力を習得する。			
C 論理的思考力			社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。			
D 問題解決力			地域の問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。			
G 倫理観			常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %		レポート： 60 %		発表： %	実技試験： %	その他： %
特記事項： テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 振り返りレポート、講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： レポートはABCD評価、試験は点数を付けて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ソーシャルサポートネットワークⅠ 考え方と位置				【事後】レポート		
②ソーシャルサポートネットワークⅡ エコロジカルアプローチ				【事前・事後】レポート		
③地域における社会資源活用・調整・開発Ⅰ 概要とコーディネート				【事前・事後】レポート		
④地域における社会資源活用・調整・開発Ⅱ 福祉サービス・税制優遇・助成金				【事前・事後】レポート		
⑤地域における社会資源活用・調整・開発Ⅲ まちづくりとソーシャルアクション				【事前・事後】レポート		
⑥地域における福祉ニーズの把握方法と実際Ⅰ アウトリーチの意義				【事前・事後】レポート		
⑦地域における福祉ニーズの把握方法と実際Ⅱ 質的・量的な福祉ニーズ				【事前・事後】レポート		
⑧地域トータルケアシステムの構築方法と実際Ⅰ 必要性と考え方				【事前・事後】レポート		
⑨地域トータルケアシステムの構築方法と実際Ⅱ 展開方法と事例				【事前・事後】レポート		
⑩地域における福祉サービスの評価方法と実際Ⅰ 背景と考え方				【事前・事後】レポート		
⑪地域における福祉サービスの評価方法と実際Ⅱ 方法と展開				【事前・事後】レポート		
⑫日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方				【事前・事後】レポート		
⑬海外の動向Ⅰ イギリス				【事前・事後】レポート		
⑭海外の動向Ⅱ アメリカ				【事前・事後】レポート		
⑮まとめと振り返り						
使用テキスト：「新・社会福祉士養成講座第9巻 地域福祉の理論と方法—地域福祉論」中央法規				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布資料とテキストを中心に、講義を進めます。疑問点や分からないこと等はいつでも講師に相談してください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 福祉行財政と福祉計画					担当教員 氏名: 宮嶋 潔	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。)について理解するとともに、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点についても理解する。					福祉行政、社会福祉法、地域福祉計画、地域福祉活動計画、地域住民	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5		
A 知識・理解力		自治体の役割と福祉計画の位置づけについて総合的な知識を身につける。				
B 専門的技術		プランニング事例を通して策定方法やスキルを理解する				
C 論理的思考力		計画策定のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: その他とは、授業出席、態度のことである。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目と15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第8回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション						
②福祉行財政と福祉計画				(前)教科書「福祉と制度」を読む		
③福祉行財政と福祉計画 福祉の法制度				(前)「福祉の法制度の展開」を読む		
④福祉行政 福祉行政の組織				(前)「福祉計画の概要」を読む		
⑤福祉行政 社会福祉基礎構造改革				(前)「社会福祉基礎構造」を読む		
⑥福祉財政 財政と社会福祉				(前)「財政と社会福祉」を読む		
⑦福祉財政 福祉サービスの利用と費用負担				(前)「福祉サービスの利用と費用負担」を読む		
⑧福祉行政の組織・団体と専門職の役割、中間まとめ				(前)「相談過程・相談体制」を読む		
⑨福祉計画の目的と意義				(前)「福祉計画の目的と意義」を読む		
⑩福祉計画の理論と技法 福祉援助の現場から福祉計画へ				(前)「福祉計画の理論と技法」を読む		
⑪福祉計画の理論と技法 老人福祉計画と介護保険事業計画				(前)「老人福祉計画と介護保険事業計画」を読む		
⑫福祉計画の理論と技法 障害者福祉計画・次世代育成支援行動計画				(前)「障害者福祉計画・次世代育成支援計画」を読む		
⑬福祉計画の理論と技法 地域福祉計画				(前)「地域福祉計画」を読む		
⑭福祉計画の理論と技法 地域福祉計画策定の方法と実際				(前)各自が住んでいる地域の「地域福祉計画」を読む		
⑮発表とまとめ						
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 第10巻 「福祉行財政と福祉計画 第2版」 社会福祉士養成講座編集委員会 = 編集				その他参考文献など: 社会福祉基礎シリーズ 11「社会保障の制度と行財政」 秋元・一圓・栃本・椋野 編 有斐閣		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 内容が多岐に渡っており、かなり難解ですので、予習は不可欠です。また、自分の住んでいる地域の福祉計画や取り組みに関心を持ってください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年	
科目名：福祉サービスの組織と経営				担当教員 氏名：虹釜 和昭		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 					経営 福祉サービス 団体	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		福祉サービスを行う組織や団体について理解する				
B 専門的技術		組織や経営の理論を学ぶ				
E 自己管理能力		管理運営の重要性と方法について理解する				
F チームワーク・リーダーシップ		リーダーシップの基礎理論について理解する				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：社会福祉施設の組織マネジメントにかかるグループディスカッション及びロールプレイを実施する						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験後に解説を実施する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①福祉サービスにおける組織・経営				【事前】テキスト内容の確認 【事後】組織論・経営論のまとめ		
②福祉サービスと制度				【事前】社会福祉制度の確認 【事後】福祉サービスと経営の整理		
③福祉サービスにかかわる組織や団体				【事前】テキスト内容の確認 【事後】各種法人の概念整理		
④福祉サービスにかかわる組織や団体		社会福祉法人		【事前】テキスト内容の確認 【事後】社会福祉法人の概念整理		
⑤福祉サービスにかかわる組織や団体		特定非営利活動団体等		【事前】テキスト内容の確認 【事後】NPO法人の概念整理		
⑥福祉サービスの組織と経営の基礎理論				【事前】テキスト内容の確認 【事後】経営に関する基礎概念整理		
⑦福祉サービスの組織と経営の基礎理論		事業計画 組織 管理運営の基礎理論他		【事前】テキスト内容の確認 【事後】事業計画の作成理論整理		
⑧福祉サービスの組織と経営の基礎理論		集団力学 リーダーシップによる基礎理論		【事前】テキスト内容の確認 【事後】組織論の具体的課題整理		
⑨福祉サービスの管理運営の方法(1)		サービス管理		【事前】テキスト内容の確認 【事後】サービス管理の基礎整理		
⑩福祉サービスの管理運営の方法(2)		サービスマネジメント		【事前】テキスト内容の確認 【事後】福祉マネジメントの整理		
⑪福祉サービスの管理運営の方法(3)		苦情対応とリスクマネジメント		【事前】テキスト内容の確認 【事後】リスクマネジメントの整理		
⑫福祉サービスの管理運営の方法(4)		人事管理と労務管理		【事前】テキスト内容の確認 【事後】人事・労務管理の基礎整理		
⑬福祉サービスの管理運営の方法(5)		会計管理と財務管理		【事前】テキスト内容の確認 【事後】福祉会計・財務の管理整理		
⑭福祉サービスの管理運営の方法(6)		情報管理		【事前】テキスト内容の確認 【事後】福祉情報のあり方整理		
⑮ふりかえり				【事前】福祉サービスの近未来考察 【事後】福祉経営戦略のまとめ		
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 第11巻 「福祉サービスの組織と経営 第4版」武居 敏(社会福祉法人聖隷福祉事業団)藤井賢一郎(日本社会事業大学)				その他参考文献など： よくわかる「組織論」ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 社会保障論 I				担当教員 氏名: 根津 敦		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門必修科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
福祉国家の構築にとって必要な社会保障制度について学ぶ。理論・現状と課題・歴史・制度について理解する。					社会保障の理念・歴史・概念、所得保障制度、医療保障制度、介護保険制度、労働保険制度	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.		
A 知識・理解力		社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。				
B 専門的技術		社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。				
C 論理的思考力		社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。				
D 問題解決力		社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。				
G 倫理観		常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他20%は授業の受講態度による。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回レポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 適宜コメントと採点を行い返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① 社会保障と臨床の関係性 I 生活上のリスク				【事後】ふりかえりレポートの提出		
② 社会保障と臨床の関係性 I 臨床的生活と日常性				【事後】ふりかえりレポートの提出		
③ 社会保障とは何か I 概念範囲・理念発達				【事後】ふりかえりレポートの提出		
④ 社会保障とは何か II 欧米における形成と展開				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑤ 社会保障とは何か III 日本における形成と展開				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑥ 社会保障とは何か IV 機能と臨床				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑦ 社会保障の方法と財源構成 I 構成・方法・体系				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑧ 社会保障の方法と財源構成 II 給付構造と財源構成				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑨ わが国の年金保険制度の現状と課題 I 公的年金制度の体系と概要				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑩ わが国の年金保険制度の現状と課題 I 国民年金①				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑪ わが国の年金保険制度の現状と課題 II 国民年金②				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑫ わが国の年金保険制度の現状と課題 III 厚生年金・共済年金				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑬ 医療保険制度の現状と課題 I 概要と制度				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑭ 医療保険制度の現状と課題 II 保健医療制度・医療供給体制				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑮ 医療保険制度の現状と課題 III 公衆衛生・諸問題						
使用テキスト: 社会福祉士シリーズ12 社会保障 第4版 弘文堂 福祉六法				その他参考文献など: 厚生労働白書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料とテキストを中心に、講義を進めます。わからない点、疑問に思った点、いつでも講師に相談をしてください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 社会保障論Ⅱ				担当教員 氏名： 根津 敦		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門必修科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
社会保障論Ⅰに引き続いて、福祉国家の構築にとって必要な社会保障制度について学ぶ。理論・現状と課題・歴史・制度について理解する。					社会保障の理念・歴史・概念、所得保障制度、医療保障制度、介護保険制度、労働保険制度	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9.		
A 知識・理解力	社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。					
B 専門的技術	社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。					
C 論理的思考力	社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。					
D 問題解決力	社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。					
G 倫理観	常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。					
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 80 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： その他20%は授業の受講態度による。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 毎回レポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 適宜コメントと採点を行い返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①わが国の介護保険制度の現状と課題Ⅰ 創設・意義・理念				【事後】ふりかえりレポートの提出		
②わが国の介護保険制度の現状と課題Ⅱ 介護保険制度の概要①				【事後】ふりかえりレポートの提出		
③わが国の介護保険制度の現状と課題Ⅲ 介護保険制度の概要②				【事後】ふりかえりレポートの提出		
④わが国の介護保険制度の現状と課題Ⅳ 老人福祉制度の関係・諸問題				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑤わが国の労働保険制度の現状と課題Ⅰ 雇用保険制度				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑥わが国の労働保険制度の現状と課題Ⅱ 労働者災害補償保険制度				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑦わが国の社会扶助の現状と課題Ⅰ 公的扶助				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑧わが国の社会扶助の現状と課題Ⅱ 社会手当				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑨社会保険と民間保険Ⅰ 個人保障				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑩社会保険と民間保険Ⅱ 企業年金				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑪社会保障の管理及び実施体制と専門職Ⅰ 行政機関・管理運営				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑫社会保障の管理及び実施体制と専門職Ⅱ 専門職・権利擁護制度				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑬現代社会における社会保障の現状と課題				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑭諸外国の社会保障制度				【事後】ふりかえりレポートの提出		
⑮まとめと振り返り						
使用テキスト： 社会福祉士シリーズ12 社会保障 第4版 弘文堂 福祉六法				その他参考文献など： 厚生労働白書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布資料とテキストを中心に、講義を進めます。わからない点、疑問に思った点、いつでも講師に相談をしてください。						

科目名：保健医療サービス				担当教員 氏名：成瀬 優知		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
相談援助時に活用する医療保険制度や保健医療サービスについて知る。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際について学び、多職種との協働のあり方を考える。						保健 保険 医療 病院 公衆衛生 退院支援 ヘルスプロモーション
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			1.医療保険制度の概略について述べるができる。 2.保健医療サービスの概略について述べるができる。			
B 専門的技術			3.保健医療サービスにおける専門職の役割について述べるができる。 4.多職種との協働のあり方について自分の意見を述べるができる。			
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
F チームワーク・リーダーシップ						
成績評価の方法：						
テスト： 50 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： テスト：50%は、各単元の要点を問う筆記試験を行い、レポート：30%は、保健医療サービスに関する知識の理解度を評価する。その他：20%では、授業への取り組み姿勢を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第1～6・8～14回は、単元毎の整理ノートにてポイントを押さえる。第7回には、第1～6回分の筆記試験、第15回には、第8～14回分の筆記試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画			事前・事後の学習課題			
①保健医療の歴史(公衆衛生とは)			シラバスを熟読する			
②健康と環境、疫学的方法論			理解できない言葉を抽出しておく			
③健康の指標			国民衛生の動向の内容を確認			
④感染症とその予防			自分の感染予防行動についてまとめる			
⑤食品保健と栄養 生活環境の保全			身辺を見渡しとられている対策をメモ			
⑥医療の制度			医療従事者について事前に調べておく			
⑦まとめ			整理ノートでポイントを整理しておく			
⑧地域保健活動			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑨母子保健			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑩学校保健			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑪生活習慣病・難病対策			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑫健康教育とヘルスプロモーション			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑬精神保健福祉			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑭産業保健			国民衛生の動向・テキストの照合			
⑮まとめ			整理ノートでポイントを整理しておく			
使用テキスト： ・清水忠彦，佐藤拓代：わかりやすい公衆衛生学，ヌーヴェルヒロカワ ・厚生統計協会：国民衛生の動向				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・積極的な授業参加を期待します。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 就労支援サービス				担当教員 氏名： 司辻 正幸	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格 選択必修
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解を深め、就労支援分野との連携について理解する。					連携 制度 労働情勢 就労支援
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (短縮マトリックスで示される番号)		2. 5. 8. 9	
A 知識・理解力	就労支援制度の概要を知る。				
B 専門的技術	関係機関との連携をとりながらそれぞれの役割を学ぶ。				
C 論理的思考力	法律や制度の理解を深め、支援の流れを学ぶ。				
D 問題解決力	問題解決に向けての手法とケアマネジメントの理解を深める。				
H コミュニケーション力	本人をとりまく環境を調整する総合理解力を身につける。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 60 %	レポート： 35 %	発表： %	実技試験： %	その他： 5 %	
特記事項：その他とは授業の出席状況や受講態度のことである。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：適時レポート評価を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験結果手渡し実施。毎回講義後の感想を踏まえた次回講義実施。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①働くことの意味と社会福祉士の役割 雇用・就労の動向と施策 (1) 労働市場の変化 (2) 労働に関する法律と制度			【事前】教科書(働くことの意味と社会福祉士の役割)を読む 【事後】①の復習		
②障害者と就労支援 (1) 障害者の就労の現状 (2) 障害者福祉施策における就労支援 (3) 障害者雇用施策における就労支援 (4) 特別支援学校における就労支援 (5) 民間の取組み (6) 諸外国の取組み			【事前】教科書(障害者と就労支援)を読む 【事後】②の復習		
③低所得者と就労支援 (1) 低所得者等の就労支援の現状 (2) 低所得者等にかかる就労支援			【事前】教科書(低所得者と就労支援)を読む 【事後】③の復習		
④専門職の役割と実際 (1) 障害者福祉施策における専門職の役割 (2) 障害者雇用施策における専門職の役割 (3) 低所得者等の就労支援における専門職の役割 (4) その他の収録支援の従事者			【事前】教科書(専門職の役割と実際)を読む 【事後】④の復習		
⑤就労支援の連携と実際 (1) 連携の過程 (2) 連携の意義 (3) 連携の実際			【事前】教科書(就労支援の連携と実際)を読む 【事後】⑤の復習		
⑥企業と障害者との就労支援			【事前】教科書(民間の取組み)を読む 【事後】⑥の復習		
⑦さまざまな働き方の支援・まとめ			【事前】教科書(さまざまな働き方の支援)を読む 【事後】⑦の復習		
⑧試験とふりかえり			【事前】就労支援サービス全体の復習をする		
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 第18巻 「就労支援サービス」中央法規出版			その他参考文献など： 厚生労働省編「労働経済白書 平成28年度版」 (日経印刷) 日本経済新聞 厚生労働省「『福祉から雇用へ』推進5か年計画」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 就労支援における社会福祉士の役割を学びましょう。積極的に授業に臨んでください。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年
科目名：権利擁護と成年後見制度				担当教員 氏名：南 義昭	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動と関連する法を理解する。 ・相談援助活動において必要となる成年後見制度について理解する。 ・成年後見制度の実際について理解する。 					成年後見 権利擁護 法
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力		法律の知識や権利擁護の制度を総合的に理解することができる。			
B 専門的技術		権利擁護活動を具体的に理解することができる。			
D 問題解決力		ケーススタディを通して問題を解決する力を身につけることができる。			
G 倫理観		法制度を学ぶことが倫理観を醸成する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %	
特記事項: 7回目の授業までの授業態度、中間レポートにて中間評価。最終のレポートを含めて総合評価する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後の講義時にレポート提出。授業態度にて評価する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートの論点の確認を行う。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①相談援助活動と法			【事前】テキスト(相談援助活動と法)を読む。 【事後】①の復習		
②日本国憲法			【事前】テキスト(日本国憲法)を読む。 【事後】②の復習		
③民法			【事前】テキスト(民法)を読む。 【事後】③の復習		
④成年後見制度			【事前】テキスト(成年後見制度)を読む。 【事後】④の復習		
⑤日常生活自立支援事業			【事前】テキスト(日常生活自立支援事業)を読む。 【事後】⑤の復習		
⑥成年後見制度利用支援事業			【事前】テキスト(成年後見制度利用支援事業)を読む。 【事後】⑥の復習		
⑦権利擁護にかかわる組織・団体～社会福祉士会の取り組み～			【事前】社会福祉士会について基本情報を調べる。 【事後】⑦の復習		
⑧権利擁護にかかわる専門職の役割			【事前】テキスト(権利擁護における専門職の役割)を読む。 【事後】⑧の復習		
⑨成年後見活動の実際 その1			【事前】テキスト(成年後見活動の実際)を読む。 【事後】⑨の復習		
⑩成年後見活動の実際 その2			【事前】テキスト(成年後見活動の実際)を読む。 【事後】⑩の復習		
⑪権利擁護活動の実際 その1			【事前】テキスト(権利擁護活動の実際)を読む。 【事後】⑪の復習		
⑫権利擁護活動の実際 その2			【事前】テキスト(権利擁護活動の実際)を読む。 【事後】⑫の復習		
⑬障害者ケアマネジメントにおける権利擁護ケーススタディその1			【事前】配布資料を読む。 【事後】⑬の復習		
⑭障害者ケアマネジメントにおける権利擁護ケーススタディその2			【事前】配布資料を読む。 【事後】⑭の復習		
⑮振り返り					
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座19「権利擁護と成年後見制度」 (中央法規)				その他参考文献など: 「その人らしく生きるー成年後見、自己決定からコミュニティフレンドまでー」佐藤彰一、Sプランニング	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 更生保護制度				担当教員 氏名： 八木 真一	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格 選択必修
授業科目の学習教育目標の概要： ・ 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 ・ 更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 ・ 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。					キーワード
授業科目の到達目標					司法 更生 相談援助
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力		更生保護制度の概要を理解する			
B 専門的技術		保護観察の方法や実施上の諸施策について学ぶ			
D 問題解決力		制度などを用いた支援について理解する			
G 倫理観		司法に必要な倫理観を醸成する			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 50 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 30 %	
特記事項：その他とは、授業出席、態度のことである。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートに関しては、講義の中で更生保護と福祉が相互に必要とされる実情を特に理解させる。試験においては、更生保護が実施する施策についての理解を深めさせるものとし、講義時に試験結果に基づき正確な理解を確認する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①更生保護制度の概要(刑事司法のなかの更生保護)			【事前】テキスト(p.1~14)を予習すること 【事後】①の復習		
②更生保護制度の概要(仮釈放 保護観察)			【事前】テキスト(p.15~35)を予習すること 【事後】②の復習		
③更生保護制度の概要(保護観察 生活環境の調整 更生緊急保護)			【事前】テキスト(p.36~48)を予習すること 【事後】課題レポート1(次々回に提出)		
④更生保護制度の概要(被害者支援 恩赦 犯罪予防活動)			【事前】テキスト(p.49~59)を予習すること 【事後】④の復習		
⑤更生保護制度の担い手 (保護観察官 保護司 更生保護施設 民間協力者)			【事前】テキスト(p.62~77)を予習すること 【事後】⑤の復習		
⑥更生保護制度における関係機関・団体との連携 (裁判所 検察庁 矯正施設 児相 職安・福祉事務所 民間団体)			【事前】テキスト(p.80~102)を予習すること 【事後】⑥の復習		
⑦医療観察制度の概要			【事前】テキスト(p.104~115)を予習すること 【事後】⑦の復習		
⑧まとめ(更生保護の実際と今後の展望)			【事前】テキスト(p.118~150)を予習すること		
使用テキスト：新・社会福祉士要請講座 20 「更生保護制度」第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版株式会社(最新版)			その他参考文献など： 「社会内処遇の社会学」日本更生保護協会発行 伊福部 舜児著 2,500円		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 上記のテキストにそって授業を進めるので、あらかじめ重要語句等の理解に努め予習をしておくこと					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 相談援助演習Ⅲ				担当教員： 鷹西 恒、松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門選択科目	演習	選択	社会福祉士基礎受験資格			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
本授業は、ソーシャルワーカー(社会福祉士)に求められる相談援助の知識と技術を実践的に習得する。ケアマネジメント過程における具体的な場面を想定し、アセスメント・プランニング、ネットワークの方法を学ぶ。						ケアマネジメント、アセスメント、プランニング、チームアプローチ、ネットワーク、多様性			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7				
C 論理的思考力			利用者の全体像を捉え、論理的に分析しニーズを把握することができる。						
D 問題解決力			利用者の抱える問題を、適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。						
F チームワーク・リーダーシップ			グループ内で自分の意見を述べ、かつ他者の意見を尊重できる。						
G 倫理観			ソーシャルワーカーの価値と倫理を踏まえて支援を考えることができる。						
H コミュニケーション力			利用者や家族と信頼関係が築くことができるコミュニケーション力を身につける。						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングとの一環として、グループ・ディスカッションやディベートを行う。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートはコメント・評価をつけて返却する。									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
①オリエンテーション、援助方法の展開について					各テーマに応じて適宜連絡する。				
②ケアマネジメント(障害分野)インテーク・アセスメント									
③ケアマネジメント(障害分野)プランニング									
④ケアマネジメント(高齢分野)インテーク・アセスメント									
⑤ケアマネジメント(高齢分野)プランニング、チームアプローチ									
⑥相談援助事例の検討(1)(社会的排除)									
⑦相談援助事例の検討(2)(高齢者虐待)									
⑧相談援助事例の検討(3)(児童虐待)									
⑨相談援助事例の検討(4)(家庭内暴力)									
⑩相談援助事例の検討(5)(低所得とその家族)									
⑪相談援助事例の検討(6)(ホームレス)									
⑫相談援助事例の検討(7)(障害者虐待)									
⑬相談援助事例の検討(8)(外国人労働者)									
⑭相談援助事例の検討(9)(マイノリティー)									
⑮まとめと振り返り									
使用テキスト: 「福祉小六法」「現代社会福祉用語の基礎知識」					使適時資料を配布する。 「図説ケアマネジメント」野中猛 中央法規				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 相談援助演習Ⅳ				担当教員： 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門選択科目	演習	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
本授業は、ソーシャルワーカー(社会福祉士)に求められる相談援助の知識と技術を実践的に習得する。具体的な場面を想定した実技指導(ロールプレイング)を通して、総合的かつ包括的な援助方法を学ぶ。地域に対する援助方法を学習する。						インテーク、アセスメント、プランニング、社会資源、地域福祉
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7	
C 論理的思考力			利用者の全体像を捉え、論理的に分析しニーズを把握することができる。			
D 問題解決力			利用者の抱える問題を、適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			グループ内で自分の意見を述べ、かつ他者の意見を尊重できる。			
G 倫理観			ソーシャルワーカーの価値と倫理を踏まえて支援を考えることができる。			
H コミュニケーション力			利用者や家族と信頼関係が築くことができるコミュニケーション力を身につける。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 40 %		発表： 40 %		実技試験： %
						その他： 20 %
特記事項：演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループ・ディスカッションやディベートを行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業の中で適時案内する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートは評価を付けて返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①オリエンテーション					各テーマに応じて適宜連絡する。	
②インテーク面接・アセスメント						
③プランニング						
④地域の社会資源の活用①						
⑤地域の社会資源の活用②						
⑥課題別事例(障害分野)						
⑦課題別事例(児童分野)						
⑧課題別事例(虐待・DV)						
⑨課題別事例(低所得・ホームレス)						
⑩社会福祉士の倫理						
⑪地域住民のニーズ把握						
⑫地域住民へのプログラムの計画						
⑬プログラムの実施演習						
⑭プログラムの実施演習						
⑮まとめ、社会福祉専門職の役割						
使用テキスト： 「福祉小六法」「現代社会福祉用語の基礎知識」				その他参考文献など：佐々木正美「自閉症児のための絵で見る構造化」学研、日本医療社会福祉協会「相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック」中央法規		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 相談援助実習指導Ⅲ				担当教員 氏名： 鷹西 恒、松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について体得し、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。相談援助実習は180時間以上の実習時間とし、2年次の7月頃に行うこととしている。					相談援助知識と技術、実習へ向けての心構え	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。					
B 専門的技術	実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。					
E 自己管理能力	実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。					
G 倫理観	実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。					
H コミュニケーション力	実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。					
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 40 %	発表： 40 %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： その他とは、授業態度のことである。なお、アクティブラーニングとしてグループ学習、発表等があります。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：実習終了後に実習報告書を提出し、実習の報告会を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価を付けてレポートを返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション 実習計画書作成と事前訪問の方法など				【事後】レポート		
②実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅰ (実習生、指導者、教員の三者協議を踏まえた計画とする)				【事前・事後】レポート		
③実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅱ				【事前・事後】レポート		
④実習計画書作成と課題学習(グループ学習)Ⅲ				【事前・事後】レポート		
⑤事例検討(グループ学習)Ⅰ				【事前・事後】レポート		
⑥事例検討(グループ学習)Ⅱ				【事前・事後】レポート		
⑦実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅰ				【事前・事後】レポート		
⑧実習先で行われる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅱ				【事前・事後】レポート		
⑨実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)				【事前・事後】レポート		
⑩「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解				【事前・事後】レポート		
⑪現場実習Ⅱ直前オリエンテーション(諸注意など)				【事前・事後】レポート		
⑫報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅰ スーパービジョン				【事前・事後】レポート		
⑬報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅱ				【事前・事後】レポート		
⑭報告書作成と事後学習(グループ学習)Ⅲ				【事前・事後】レポート		
⑮相談援助実習報告会とまとめ(自己評価を含む)				【事前・事後】レポート		
使用テキスト：福祉小六法、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社、実習実施要綱、「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、その他適宜資料を配布する。				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：原則として全授業に出席すること。実習終了後の実習報告レポートを締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されない。十分な覚悟の上履修してほしい。尚、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱの単位を取得していないものは、履修できない。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2年

科目名: 相談援助実習					担当教員氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子				
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
4	2年次 前期	専門選択科目	実習	選択	社会福祉士基礎受験資格				
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
社会福祉の実践現場で、相談援助活動に係る知識と技術の基本を学ぶことを目的とする。相談援助実習指導Ⅰ～Ⅲで行われる実習の事前・事後の学習と合わせて、社会福祉への理解を確かなものとしてほしい。					現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会				
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
B 専門的技術		ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。							
E 自己管理能力		事前学習、実習中の実習ノートの作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。							
F チームワーク・リーダーシップ		実習現場の職員との連携等を行うことができる。							
G 倫理観		ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。							
H コミュニケーション力		実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。							
成績評価の方法:実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:7月上旬～8月上旬。180時間以上・25日以上 ※配属先施設の事情により時期が異なる場合がある。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、180時間以上・25日以上の実習を行う。 ・この間担当教員による巡回指導が行われる。					分野別の指導内容によって異なる				
使用テキスト:「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、福祉小六法、現代社会福祉用語の基礎知識学文社 その他適宜資料を配布する。					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望を参考に教員が決定する(原則として)。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2年

科目名: 医療・精神科ソーシャルワーク論				担当教員 氏名: 藤川 泰永・萩原 美紀子 松尾 祐子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
医療・精神科分野のソーシャルワークについて、歴史から現在の課題を理解する。また、ソーシャルワークの価値・倫理・視点や社会資源、面接に必要な基本的な技法・技能を身につけることを目標とする。					医療・精神科ソーシャルワーク、価値・倫理、視点、連携・協働、社会資源、ケアマネジメント、リカバリー
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		医療・精神科ソーシャルワークに必要な知識や理論を理解する。			
B 専門的技術		面接に必要な基本的な技法を身につける。			
C 論理的思考力		医療・精神科ソーシャルワークの歴史を理解し、現在の課題を考える。			
D 問題解決力		クライアントのニーズを捉え問題を整理し、解決策を考えることができる。			
G 倫理観		専門職として支援に必要な倫理観を身につける。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 60 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他として、授業に対する参加度や態度を含む。 また、レポートは毎回の感想(出席カード)を含む					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートにコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【藤川】オリエンテーション、医療ソーシャルワークとは			4月4日	医療ソーシャルワークについて調べる。	
②【藤川】医療ソーシャルワークの歴史			4月11日	歴史について調べる	
③【藤川】医療ソーシャルワークの価値・倫理・視点			4月18日	価値・倫理・視点について調べる。	
④【藤川】保健医療をめぐる動向、医療機関の機能とソーシャルワーク			5月2日	医療機関の機能について調べる。	
⑤【藤川】医療ソーシャルワークの業務指針、連携・協働			5月9日	業務指針、連携・協働について調べる。	
⑥【藤川】ソーシャルワークの実践アプローチ、スーパービジョン			5月16日	実践アプローチについて調べる。	
⑦【萩原】医療ソーシャルワーク実践			5月23日	医療ソーシャルワークについてまとめる。	
⑧【萩原】医療ソーシャルワーク実践			5月30日	医療ソーシャルワークについてまとめる。	
⑨【松尾】精神障害をもつ人の生活			6月6日	精神障害について調べる。	
⑩【松尾】事例(統合失調症、うつ病等)			6月13日	生活のしづらさについて調べる。	
⑪【松尾】自殺防止への取り組み			6月27日	自殺への取り組みを調べる。	
⑫【松尾】精神科ソーシャルワークの歴史と現在の課題			8月8日	歴史について調べる	
⑬【松尾】精神科ソーシャルワークに必要な社会資源			8月22日	社会資源について調べる。	
⑭【松尾】社会復帰に向けた取り組み			8月29日	社会復帰への取り組みを調べる。	
⑮【松尾】家族支援、就労支援			9月5日	家族支援・就労支援について調べる。	
使用テキスト: なし プリントを使用します。			その他参考文献など: 『これがMSWの現場です』菊池かほる 『コメディカルスタッフのための精神障害Q&A』 藤本豊		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布する資料等は自分でファイルし、授業の時に持参してください。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：発達障害概論				担当教員 氏名：社会福祉専攻教員		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
本科目では、主に知的障害、自閉症スペクトラム障害に対する基本的な知識を得ることを目標とする。さらに、知的障害児者、知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害児者の示す他害や自傷などの行動問題に対する支援について、機能的アセスメントを柱とする積極的行動支援の視点から理解することも目標としている。					知的障害、自閉症スペクトラム障害、機能的アセスメント、積極的行動支援	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		知的障害、自閉症スペクトラム障害の特性を理解することができる。				
B 専門的技術		積極的行動支援(応用行動分析)に基づいた支援方法を取得する。				
D 問題解決力		知的障害児者や知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害児者の示す行動問題に関する事例を検討し、具体的な支援方法を考えることができる。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %	レポート： 50 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：「その他」とは、グループワークへの参加状況になる。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：振り返りレポート、講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①発達障害の概要(1)				【事後】振り返りレポート		
②発達障害の概要(2)				【事後】振り返りレポート		
③特別支援教育と福祉(1)				【事後】振り返りレポート		
④特別支援教育と福祉(2)				【事後】振り返りレポート		
⑤特別支援教育と福祉(3)				【事後】振り返りレポート		
⑥積極的行動支援に基づいた支援(1)				【事後】振り返りレポート		
⑦積極的行動支援に基づいた支援(2)				【事後】振り返りレポート		
⑧まとめと振り返り				【事後】振り返りレポート		
使用テキスト：テキストなし。必要な資料等は講義時に配布する。				その他参考文献など：講義の中で、必要に応じて参考図書を示す。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：グループワークを行う場合は、積極的な参加をお願いします。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: ソーシャルワーク研究					担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
・研究テーマを決め、各研究室の教員の指導のもとに研究活動を行い、これを通じて研究の進め方や問題解決法などを学ぶ ・将来、専門職となった際に必要なプレゼン技法等を身につける					ソーシャルワーク、先行研究、研究計画、研究調査、プレゼン技法、考察	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		福祉研究や文献等に触れることで総合的な知識力を高めることができる				
B 専門的技術		ソーシャルワークにおける視野、視界、視座の範囲を広げることができる				
C 論理的思考力		想起、研究、実践のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる				
D 問題解決力		研究を通して問題解決に至る力を身につけることができる				
G 倫理観		研究を通して生命観や倫理観を身につけることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 70 %		
特記事項: その他とは、研究活動の取り組み姿勢や態度のことである。 なお、アクティブラーニングとして体験学習、グループ学習、発表等があります。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 課題研究論文等の提出と発表を義務づける						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
【オリエンテーション】研究の目的、学習の進め方と姿勢、評価方法等の説明 テーマ、研究領域の設定(10月) 全体および個別指導						
テーマ及び研究計画の作成(10月)						
調査、研究の実施(11~12月)						
中間発表(12月)						
結果分析と考察(1月)						
論文や研究成果の提出(~1月)						
研究発表会(2月)						
使用テキスト:				その他参考文献など:「論文の書き方マニュアル―ステップ式リサーチ戦略のすすめ」 新版(有斐閣アルマ)花井 等(著)若松 篤(著)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 目的意識を持ってすすめてください。進路決定等キャリア支援に関係する場合があります						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：心の健康管理				担当教員 氏名：竹ノ山 圭二郎、松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
人々の心の健康の増進および心の病気の予防、そしてそれらのためのよりよい社会・環境の創造(改善)を目的とするメンタルヘルスの基礎的知識と考え方を学ぶ。					健康管理、メンタルヘルス、ストレス、発達、心身医学	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 9.		
A 知識・理解力		メンタルヘルスに関する基礎的知識について理解する。				
B 専門的技術		利用者の立場に立ち、専門的知識に基づいて心の健康管理を理解・実践できる。				
D 問題解決力		メンタルヘルスに関する知識を予防に役立てることができる。				
E 自己管理能力		メンタルヘルスにおけるストレスや発達の問題を理解し、専門的知識に基づいて自らの心の健康を管理できる。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 80 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： レポート(40%×2)および授業への取り組み態度(20%)にて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポート提出は第7回および第14回に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画			日付	事前・事後の学習課題		
①【竹ノ山】メンタルヘルスとは			10月6日	健康の概念についてまとめる。		
②【竹ノ山】ストレスと体の関係			10月13日	ストレスと体の関係についてまとめる。		
③【竹ノ山】ストレスがもたらす病1：気分障害			10月20日	気分障害についてまとめる。		
④【竹ノ山】ストレスがもたらす病2：心身症と不安障害			10月27日	心身症と不安障害についてまとめる。		
⑤【竹ノ山】ストレスがもたらす病3：統合失調症とパーソナリティ障害			11月10日	統合失調症とパーソナリティ障害についてまとめる。		
⑥【竹ノ山】ストレスにおける適応反応と個人の特性			11月17日	ストレスと病気の関係についてまとめる。		
⑦【竹ノ山】小児期における心の病気			11月24日	①～⑦についてのレポート提出。		
⑧【松尾】青年期における心の病気			12月1日	青年期の心の病気についてまとめる。		
⑨【松尾】成年期・中年期における心の病気			12月8日	中年期の心の病気についてまとめる。		
⑩【松尾】高齢期における心の病気			12月15日	高齢期の心の病気についてまとめる。		
⑪【松尾】職場におけるストレスと心の病気			12月22日	職場のストレスについてまとめる。		
⑫【松尾】職場のメンタルヘルス対策			1月5日	職場のメンタルヘルスについてまとめる。		
⑬【松尾】ストレスの解消法			1月12日	ストレスの解消法についてまとめる。		
⑭【竹ノ山】心身医学とは			1月19日	⑧～⑬についてのレポート提出		
⑮【竹ノ山】心の治療法			1月26日	総復習をする。		
使用テキスト： 健康管理士一般指導員テキスト(テキスト3) 日本成人病予防協会発行				その他参考文献など：左記テキストを徹底して学習してください。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：心の健康管理は、日常生活を送る上でも、職場で安定して働く上でも、また人々の健康を支援する上でも欠かせない重要な専門的知識です。この科目は、健康の概念や心身の発達について理解していることを前提に進めますので、予習・復習をきちんと行ってください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：生活環境と健康/健康管理の進め方				担当教員 氏名：成瀬 優知		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
生活環境と健康との関係を知るとともに、現在行われている健康管理活動を理解し、健康で暮らせるための社会のしくみについて考える。						生活環境、健康、健康管理活動
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 10.	
A 知識・理解力			生活環境と健康との関係を理解し、健康を維持するための健康管理について学ぶ			
D 問題解決力			よりよい健康管理活動について考えることができる			
E 自己管理能力			自らの健康を管理する力を身につける			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 90 %		レポート： %		発表： %		実技試験： %
その他： 10 %						
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：詳細はガイダンスで説明する						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①人体と環境				10月4日	事前:教科書を読む 事後:①の復習	
②物理環境と健康①				10月11日	事前:教科書を読む 事後:②の復習	
③物理環境と健康②				10月18日	事前:教科書を読む 事後:③の復習	
④環境問題と健康①				10月25日	事前:教科書を読む 事後:④の復習	
⑤環境問題と健康②				11月1日	事前:教科書を読む 事後:⑤の復習	
⑥地球規模での環境問題と健康				11月8日	事前:教科書を読む 事後:⑥の復習	
⑦環境保全				11月15日	事前:教科書を読む 事後:⑦の復習	
⑧健康管理の方法				11月22日	事前:教科書を読む 事後:⑧の復習	
⑨地域社会における健康管理活動				11月29日	事前:教科書を読む 事後:⑨の復習	
⑩母子の健康管理活動				12月6日	事前:教科書を読む 事後:⑩の復習	
⑪学校における健康管理活動				12月13日	事前:教科書を読む 事後:⑪の復習	
⑫職場における健康管理活動①				12月20日	事前:教科書を読む 事後:⑫の復習	
⑬職場における健康管理活動②				1月10日	事前:教科書を読む 事後:⑬の復習	
⑭高齢者の健康管理活動				1月17日	事前:教科書を読む 事後:⑭の復習	
⑮まとめ				1月24日	事前:全体の復習	
使用テキスト： テキスト5 生活環境と健康/健康管理の進め方				その他参考文献など：左記テキストを徹底して学習してください。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 講義の前には教科書を読んでおいて下さい。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 身体を守る健康知識				担当教員 氏名： 小出 えり子、毛利 亘、 村田 美代子、村井 嘉寛、新任教員		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
健康づくりのための運動などの1次予防に加えて、薬の基本的な知識、救急蘇生法、介護法などの身体を守るための健康知識を学ぶ。				健康、介護、医療、支援		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8		
A 知識・理解力		既習の知識と新たな知識を関連づけながら、身体を守る健康知識の全体像をつかむことができる				
B 専門的技術		知識(根拠を含む)をもとに、専門的技術を自分の身体を使って表現することができる				
D 問題解決力		対象に応じた支援を考えることができる				
F チームワーク・リーダーシップ		チームメンバーの一員としての自分の役割を果たすことができる				
G 倫理観		専門職として、社会人として、人としてあるべき行動をとることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: 10 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細はガイダンスで説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価をつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【村井】薬を服用する時の注意と扱い方	4月6日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】①の復習	
②【村井】薬の基礎知識	4月13日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】②の復習	
③【 】日常生活活動での介護①	4月20日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】③の復習	
④【 】日常生活活動での介護②	4月27日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】④の復習	
⑤【小出】介護法とは、認知症	5月11日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑤の復習	
⑥【小出】バイタルサインの観察	5月18日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑥の復習	
⑦【村田】救急蘇生法①	5月25日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑦の復習	
⑧【村田】救急蘇生法②(実技演習)	6月1日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑧の復習	
⑨【毛利】褥瘡に対する介護	6月8日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑨の復習	
⑩【毛利】リハビリテーションについて	6月15日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑩の復習	
⑪【村井】薬の副作用、相互作用	6月19日(月)	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑪の復習	
⑫【村井】東洋医学の基礎知識	6月26日(月)	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑫の復習	
⑬【村井】東洋医学の診断と治療法	8月10日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑬の復習	
⑭【村井】運動と健康①	8月24日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑭の復習	
⑮【村井】運動と健康②	8月31日	1限目	1-303教室	【事前】教科書を読む	【事後】⑮の復習	
使用テキスト: テキスト6 健康管理士一般指導員テキスト「身体を守る健康知識」				その他参考文献など: 左記テキストを徹底して学習してください。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 講義の前には教科書を読んでおいて下さい。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 医療秘書実務・医療管理学				担当教員 氏名： 西藤 恭子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修／選択	備考
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
医療機関で働くために必要な病院組織と運営、医療法や診療録の管理、患者接遇について学ぶ。					医療の歴史、病院組織と経営、医療法、医療保険、診療録、患者接遇
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力		「国民衛生の動向」			
B 専門的技術		患者接遇の技術を習得する。			
D 問題解決力		患者や家族への対応に関する課題を解決する力をつける。			
E 自己管理能力		自らの心身の健康を管理し、自律した行動ができる。			
G 倫理観		医療の現場の倫理を踏まえて行動できる。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 70 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： %	
特記事項：その他として、授業に対する参加度や態度を含む。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートにコメントや評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション			第1章を読む		
②医療の歴史			第1章をまとめる		
③病院の業務			第2章を読む		
④病院のマネジメント			第2章をまとめる		
⑤医療法の目的と沿革			第3章を読む		
⑥医療法の条文と重要法規			医療法についてまとめる		
⑦医師法			医師法について調べる		
⑧薬剤師法と保健師助産師看護師方			第4章をまとめる		
⑨医療保険制度			医療保険制度を復習する		
⑩高額療養費と公的負担			第5章をまとめる		
⑪介護保険法			介護保険法をまとめる		
⑫医療情報の内容と記載			第6章をまとめる		
⑬診療録			診療録について復習する		
⑭医療秘書教養			第9章をまとめる		
⑮まとめと振り返り			全体を復習する		
使用テキスト： 「医療管理・事務総論」医療教育協会			その他参考文献など： 「国民衛生の動向」厚生統計協会		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名：生涯スポーツ演習					担当教員 氏名：小川 耕平	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
自らが、生涯を通じ体を動かすための知識と技術を習得し、自分自身が生涯を通じてスポーツに取り組めるようにすると同時に、障害者の運動実践についても知識と技術を身につけることで、幅広いスポーツ実践及びスポーツ指導が可能になることを目指す。					<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツ ・障害スポーツ ・コミュニケーション ・球技 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7	
A 知識・理解力			生涯スポーツ・障害スポーツに必要な知識について理解する			
D 問題解決力			様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める			
F チームワーク・リーダーシップ			チームメイトと協力して実技を行う			
G 倫理観			スポーツのルールを厳守し活動する			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 10 %		レポート: 60 %		発表: %	実技試験: 30 %	その他: %
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回ミニレポート提出を行い各自の疑問を明確する						
授 業 計 画						
①オリエンテーション: 障害者スポーツ指導者制度					【事後】障害者スポーツ指導者	
②健康づくりと体力づくりについて: 障害者スポーツの意義と理念					【事後】簡易体力テストの方法	
③健康づくりと体力づくりについて: 障害者スポーツの意義と理念・大会の概要					【事後】簡易体力づくりの方法	
④スポーツと安全について: 安全管理					【事後】安全管理・救急処置法の体験	
⑤体力テストの実践Ⅰ(施設での体力測定)					【事後】自分の体力について	
⑤体力テストの実践Ⅱ(施設での体力測定)					【事後】自分の体力について	
⑦運動実践Ⅰ: ウォーキング・ノルディックウォーキング: 障害に応じたスポーツの工夫・実施					【事後】運動方法の工夫	
⑧運動実践Ⅱ: ジョギング・ランニング: 障害に応じたスポーツの工夫・実施					【事後】運動方法の工夫	
⑨運動実践Ⅲ: バリアフリーの運動: 障害に応じたスポーツの工夫・実施					【事後】運動方法の工夫	
⑩球技の実践					【事後】スポーツの実践	
⑪球技の実践					【事後】スポーツの実践	
⑫スポーツイベントへの参加: 障害者との交流					【事後】障害者との交流	
⑬スポーツイベントへの参加: 障害者との交流					【事後】障害者との交流	
⑭スポーツイベントへの参加: 障害者との交流					【事後】障害者との交流	
⑮スポーツイベントへの参加: 障害者との交流					【事後】障害者との交流	
使用テキスト: 必要に応じてプリント配布 ※体力測定費用2,000円が別途必要になります ※障害者スポーツ指導員初級テキスト ※障害者スポーツ指導教本 初級・中級(株式会社ぎょうせい)					その他参考文献など: ・健康・運動の科学(講談社)	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・実習として施設に体力測定に行きます。 ・数回の授業を集中して行うこともあります。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年	
科目名: 臨床美術の実践 I				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択	臨床美術士4級	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力		右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
B 専門的技術		状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。				
D 問題解決力		「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力		造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %
その他: 10 %						
特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ 鉛筆2Bか4B						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				準備物/事前・事後の学習課題		
【岡野】授業ガイダンス				4月3日 (※受講上の留意点参照)		
①【北澤】臨床美術基幹Ⅱ-①「臨床美術研究成果」				4月10日		
②【北澤】臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」				4月10日		
③【岡野】臨床美術アートプログラム制作「土偶」				4月17日 準備物: 4~5cmの石1個		
④【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ「ギャラリートーク」				4月17日		
⑤【北澤】臨床美術アートプログラム制作「石のアナログ画」				5月1日 準備物: こぶし大の石1個		
⑥【岡野】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」①				5月8日		
⑦【岡野】臨床美術アートプログラム制作「アジの干物を描く」②				5月8日		
⑧【北澤】臨床美術学演習 「つまづき、ルービンの壺、純粋輪郭画、修正輪郭画」				5月15日 事前課題: フォルメン、フリー実習(計画書) 準備物: 鉛筆(2B、4B)3本		
⑨【岡野】臨床美術学演習「白と黒の魔術、右脳的な見方、きみ子方式」				5月22日 事前課題: クレーの模写		
⑩【岡野】臨床美術学演習「ジェスチャー画」				5月22日 準備物: プラスティックスプーン		
⑪【北澤】臨床美術教材研究「共同制作」				5月29日 準備物: プラスティックスプーン1本		
⑫【北澤】臨床美術教材研究「アートプログラムにおける造形素材」				5月29日		
⑬【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ 「現場セッションについて(プロコリー)、子どもの現場セッションのDVD」				6月5日 準備物: 5級テキスト		
⑭【北澤】指導案演習「実習に向けての試作」				6月12日 持ち物: 実習用アートプログラム、りんご		
⑮【北澤】臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」				6月12日 事前課題: 実習プログラム試作品		
使用テキスト: 『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目は「臨床美術」の単位取得者のみ受講できます。 4月 日の授業ガイダンスで授業の内容と日程について説明します。受講者は欠席しないようにしてください。 本科目は2コマ続けて行う授業になります。また開講日も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみを記載してあります。)						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年	
科目名：臨床美術の実践Ⅱ				担当教員氏名：北澤 晃、岡野 宏宣		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	演習	選択	臨床美術士4級	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。				・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術	状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。					
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。					
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。					
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト：0%	レポート：20%	発表：20%	実技試験：50%	その他：10%		
特記事項： ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。						
毎回の準備物：脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				準備物/事前・事後の学習課題※		
①【岡野】指導案演習「フリー実習振り返り」		10月6日		事前課題： フリー実習(報告書) 様々な技法を試す・様々な紙を試す		
②【岡野】指導案演習「ロールプレイング①」		11月10日		準備物：りんご1個		
③【岡野】指導案演習「ロールプレイング②」		11月10日				
④【北澤・岡野】指導案演習「実習事前指導」「実習準備」		12月1日				
⑤【北澤・岡野】現場実習 ※⑤⑥⑦の現場実習は連続して行います。		12月8日(15日)		※()は予備日です。 授業日は事前に授業内にて連絡します		
⑥【北澤・岡野】現場実習		12月8日(15日)				
⑦【北澤・岡野】現場実習		12月8日(15日)				
⑧【北澤・岡野】指導案演習「実習振り返り」		12月22日		準備物：実習現場記録表、課題図書レポート		
⑨【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング①」		1月12日		事前課題：ゴーギャンの模写		
⑩【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング②」		1月12日				
⑪【岡野】臨床美術基幹Ⅱ-②「臨床美術プロデュース」		1月19日				
⑫【岡野】「総括」「認定後の活動」		1月19日		臨床美術協会認定申請書 (課題をすべて提出してある学生) 準備物：臨床美術ハンドブック		
使用テキスト：『臨床美術士養成講座4級』、芸術造形研究所『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』、芸術造形研究所				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります)						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		2 年
科目名： 表現アート演習Ⅱ				担当教員 氏名： 北澤 晃	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
表現アート演習Ⅱでは、他者とのコミュニケーションの場におけるアートの働きを「きときとアート塾」の運営・実践を通じたアクティブラーニングによって学んでいく。主に様々な造形素材に触れ、表現の楽しさについての自己の概念を捉えなおす。また、各課題終了後に表現のプロセスを振り返り、自己・他者の気づきの共有を図ることで実践的な理解を深める。				<ul style="list-style-type: none"> ・表現アート・臨床美術 ・コミュニケーション ・自己意識と他者 ・意味生成プログラム 	
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力		コミュニケーションとしての表現アートについて理解することができる。			
B 専門的技術		様々な造形素材を生かし、楽しんで表現する。			
D 問題解決力		本科目で経験した表現アートの内容、プロセス、気づきなどに関してまとめ、学びを整理して記述し、実践に生かすことができる。			
H コミュニケーション力		表現アートの活動に取り組むなかで、自己への理解を深めつつ、他者を理解しようとする姿勢をもつ。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： 70 %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：『レポート 70%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 20%』は、各回の授業等における各自の振り返りのコメントである。『その他 10%』は演習への取り組み状況である。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：各課題ごとに学びを整理・記録したファイルを作成し④の授業にて提出					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：毎回の授業においてコメントする。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【ガイダンス】(表現アート演習Ⅱの科目の学習目標、学習内容について、試作)			4月7日	振り返りとポートフォリオ作成	
②表現アート演習Ⅰ振り返り/意味生成/身体性/意識構造			4月14日	振り返りとポートフォリオ作成	
③相互行為分析「山のものど海のものとはもだち」-1			4月21日	振り返りとポートフォリオ作成	
④きときとアート塾実施ガイダンス/相互行為分析「山のものど海のものとはもだち」-2/意味から言葉へ(物語が生まれるまえに)			4月28日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑤きときとアート塾1の実施			5月12日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑥きときとアート塾振り返り			5月19日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑦臨床美術の入門Ⅲ			5月26日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑧プログラムアート研究Ⅰ			6月2日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑨プログラムアート研究Ⅱ			6月9日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑩きときとアート塾2の実施			6月16日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑪きときとアート塾振り返り			6月23日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑫プログラムアート研究Ⅲ			6月30日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑬きときとアート塾3の実施			8月18日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑭きときとアート塾振り返り/自己の学びの総括(発表)			8月25日	振り返りとポートフォリオ作成	
⑮授業の振り返りと総括			9月1日	振り返りとポートフォリオ作成	
使用テキスト：北澤晃『造形遊びの相互行為分析 他者との交流の世界をひらく意味生成カウンセリング』せせらぎ出版※謹呈する。			その他参考文献など：浜田寿美男『意味から言葉へ』ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：【実習費】一人3,000円(第2回目に徴収します。)18色の色鉛筆とオイルパステルは各自で用意してください。【その他】この科目は、臨床美術のアートプログラムを体験することを通して、表現アートの本質に迫ります。臨床美術士としてセッションを実施する場合、芸術造形研究所販売のアートプログラムについては、臨床美術士資格を取得後、芸術造形研究所より購入する必要があります。					

科目名: 臨床心理学				担当教員 氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
心理的援助についての理論ならびに技法の基礎と心理療法プロセスについて扱う。精神分析やクライアント中心療法、行動療法といった、主要な心理療法各学派の理論と技法について概説した後、事例検討を多く取り入れることによって心理療法プロセスについて学ぶとともに、知識の定着を図りたい。						・心理学的援助 ・事例検討
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力			心理学的援助の理論と技法に関する基礎的概念を理解する			
C 論理的思考力			理論が援助プロセスでどのように生かされるかについてイメージを持てる			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 100 %		レポート: %		発表: %		実技試験: %
						その他: %
特記事項: アクティブラーニングの一環として、実際の臨床記述を用い、その事例の理解、援助課程の理解をレポートとしてまとめる時間をもつ。評価は2回実施するテストによりおこなう(それぞれ50%)。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8回目、15回目						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストを採点し返却						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①来談者中心療法の理論と技法に関する知識を習得する。				[事後]①の復習		
②来談者中心療法が重視する、共感、受容の本質について焦点を当て、事例を用いて理解を深める。				[事後]②の復習		
③精神分析1(精神分析的な人格論、技法論に関する知識を習得する)				[事後]③の復習		
④精神分析2(精神分析の発達論についての知識を習得する。)				[事後]④の復習		
⑤事例検討1(PTSDの治療例を素材とし、心的外傷の援助について学ぶ)				[事後]⑤の復習		
⑥プレイセラピーの理論と技法について学ぶ。				[事後]⑥の復習		
⑦事例検討2(子どものプレイセラピー実践例を素材とし、子どもの援助に必要な知識、態度について学ぶ)				[事後]⑦の復習		
⑧前半のまとめ。心理学的検査法(投影法による人格検査を実体験し、その方法と意義を学ぶ)				[事前]①から⑦の復習		
⑨事例検討3(うつ病の治療例を素材とし、うつ病者に対する援助方法について学ぶ)				[事後]⑨の復習		
⑩事例検討4(子どものプレイセラピーと箱庭を併用した実践例について学ぶ)				[事後]⑩の復習		
⑪コラージュ療法体験				[事後]⑪の復習		
⑫事例検討5(被虐待児とその母親に対する心理治療例を素材とし、被虐待児と母親の援助について学ぶ)				[事後]⑫の復習		
⑬事例検討6(行動化を伴ったうつ症状を呈する心理治療例を素材とし、行動化の意味と対応について学ぶ)				[事後]⑬の復習		
⑭児童養護施設児童の心理的援助について学ぶ				[事後]講義内容全体の復習		
⑮全体のまとめ。全授業内容から出題。						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

科目名: カウンセリング基礎演習				担当教員 氏名: 石黒 真弓		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	専門選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
カウンセリング基礎理論で身に付けた知識をロールプレイングなどで実際に体験します						対人関係・受容
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 10	
C 論理的思考力			知識を生かし、日常生活で起こりうる場面において活用できるよう道筋をたてて考えます。			
D 問題解決力			クライアントが抱える問題について、適切に関わり問題解決に努めます。			
F チームワーク・リーダーシップ			集団内での行動に着目し、集団内での自身の役割について考えます。			
G 倫理観			自らを律しつつ、人権尊重の倫理観に基づいて他者を理解する。			
H コミュニケーション力			言語および非言語でさまざまな人との人間関係を広めます。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	20 %	実技試験: %
						その他: 30 %
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントを書いて返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①自己理解、他者理解				「理解」とはどういうことか整理する		
②カウンセリングテクニック1				2つの技法を使い分ける		
③カウンセリングテクニック2				4つの技法を使い分ける		
④カウンセリングテクニック3				6つの技法を使い分ける		
⑤カウンセリングテクニック4				8つの技法を使い分ける		
⑥演習1				各技法を説明できるようになる		
⑦演習2				適切な技法をえらび理由を考える		
⑧個人カウンセリングと集団カウンセリング				集団カウンセリングについて個別とのちがいを整理		
⑨グループエンカウンター1				エンカウンターの特徴をまとめる		
⑩グループエンカウンター2				エンカウンターの目的をまとめる		
⑪グループエンカウンター3				エンカウンターの効果をまとめる		
⑫集団カウンセリング実施計画				計画をたて準備する		
⑬集団カウンセリング計画発表1				計画通りだったか振り返る		
⑭集団カウンセリング計画発表2				計画通りだったか振り返る		
⑮まとめ				カウンセリングのながれを整理する		
使用テキスト:				その他参考文献など: カウンセリングテクニック入門		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※本科目は「カウンセリング基礎理論」の単位修得者のみ受講できます。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 心理アセスメント基礎実習				担当教員 氏名： 竹ノ山 圭二郎					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次 前期	専門選択科目	演習	選択					
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
福祉施設、医療、児童相談、教育相談等の現場において、利用者を客観的かつ根拠をもって理解するために、心理アセスメントは必須の技術である。心理アセスメントを実施するための基礎的技術および報告書を理解するための基礎的知識について実践的に学ぶ。					知能検査、脳機能検査、性格検査、テスト・バッテリー、アセスメント				
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 9.				
A 知識・理解力		心理アセスメントの基礎知識を身に付けている。							
B 専門的技術		心理アセスメントの技術を習得している。							
C 論理的思考力		人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。							
G 倫理観		心理アセスメントにおける倫理を守りながら、利用者を理解していくことができる。							
H コミュニケーション力		心理アセスメントによって得られた情報を的確にまとめた報告書を作成し、解りやすく説明することができる。							
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	80 %	発表：	%	実技試験：	%	その他：	20 %
特記事項： レポート(40×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： レポート提出は第8回および第15回に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
①心理アセスメント実習の進め方、注意事項、報告書の作成方法等についてのガイダンス					演習科目のため、指定なし				
②認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成1									
③認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成2									
④認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成3									
⑤認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成4									
⑥認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成5									
⑦認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成6									
⑧認知機能領域におけるアセスメント実習と報告書作成7									
⑨人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成1									
⑩人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成2									
⑪人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成3									
⑫人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成4									
⑬人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成5									
⑭人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成6									
⑮人格領域におけるアセスメント実習と報告書作成7									
使用テキスト： テキスト不要。必要な資料・検査用具等は授業時に配布または貸し出します。				その他参考文献など： 岡堂哲雄(編)臨床心理学全書第2巻 臨床心理査定学[誠心書房]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 各種心理検査を行い、人を総合的にアセスメントするための技術の基礎を学ぶ実践的科目です。福祉や心理における倫理規定は常に意識し、必ず守るようにしてください。実践的なアクティブ・ラーニングで学びます。									

科目名：発達心理学				担当教員 氏名：竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
人は誕生してから亡くなる時まで、遺伝的要因と環境的要因からの相互作用を受けながら、常に変化を続ける。すなわち生涯にわたる発達の縦軸と関連付けること無しには、「個人」の理解はありえない。生涯発達の基礎的知識を学ぶ。					遺伝と環境、生涯発達、発達段階、発達と支援、認知症	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.	
A 知識・理解力		発達心理学の基礎知識を身に付けている。				
B 専門的技術		発達の観点から利用者の生活ニーズを理解できる。				
C 論理的思考力		人間の行動や心理を発達の観点で意味づけながら、科学的に理解できる。				
E 自己管理能力		生涯発達の縦軸に自らを位置づけて、自らを理解し、律することができる。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項：レポート(40%)、期末試験(40%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポート提出は第8回、期末試験は第15回に行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① 遺伝と環境および発達の基礎概念				遺伝と環境について調べる		
② 発達段階の理論				主な発達理論を調べる		
③ 乳児期の心理的発達				乳児期の特徴について調べる		
④ 乳幼児期の神経心理学的発達 : 特別講師				幼児前期の特徴について調べる		
⑤ 幼児期の心理的発達				幼児後期の特徴について調べる		
⑥ 児童期の心理的発達				児童期の特徴について調べる		
⑦ 青年期の心理的発達				青年期の特徴について調べる		
⑧ 成人期の心理的発達				テキストⅠ・Ⅱ章		
⑨ 高齢期：家族との関係				テキストⅢ章		
⑩ 高齢期：仕事・社会との関係				テキストⅣ章		
⑪ 高齢期の心理的問題				テキストⅤ章		
⑫ サクセスフル・エイジング				テキストⅤ章		
⑬ 認知症の理解と支援Ⅰ：アセスメントの技法				テキストⅥ章		
⑭ 認知症の理解と支援Ⅱ：BPSDへの対応				テキストⅥ章		
⑮ まとめ				総復習をしておく		
使用テキスト：シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ老年心理学、大川一郎・土田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子(編著)、ミネルヴァ書房				その他参考文献など：塚野州一(編)みるよむ生涯発達心理学—バリアフリー時代の課題と援助—[北大路書房]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：乳幼児から高齢者まで、「個人」を理解しようとするときに発達の観点から関連付けることは、きわめて重要です。なぜなら人は常に成長・変化し続けるものだからです。必要資料は適宜、追加配布しますが、図書館等でしっかりと予習しておいてください。						

科目名： 人格心理学				担当教員 氏名： 石黒 真弓	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
他者を支援するためには、相手が何を感じ、どう考え、どんな行動傾向があるのか、つまり、相手の人格(パーソナリティ)を理解する必要がある。同様に援助者としての自分自身について理解を深めることも重要である。本授業では、他者と自分自身の人格を理解するための枠組み(理論)を習得することが目的である。					人格(パーソナリティ)、自己理解、他者理解、気分・感情、認知、行動
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 5. 6. 7. 9	
A 知識・理解力	人格心理学の概要と様々な人格理論を理解し、人の心理に関する理解を深める				
C 論理的思考力	人格理解に関する枠組みを習得し、他者および自分自身の理解に活かす				
E 自己管理能力	人格について学ぶことで自己覚知の実践力を高める。				
G 倫理観	人間について学ぶことで倫理観を高める。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: テストは2回(各45%)実施する。その他10%は受講態度(出席など)による。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントを書いて返却します。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①人格(パーソナリティ)とは?			【事後】①の復習		
②人格心理学の代表的な理論			【事後】②の復習		
③人格(パーソナリティ)の測定方法			【事後】③の復習		
④人格(パーソナリティ)の発達的变化 I			【事後】④の復習		
⑤人格(パーソナリティ)の発達的变化 II			【事後】⑤の復習		
⑥人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 I			【事後】⑥の復習		
⑦人格(パーソナリティ)の生物学と脳科学 II			【事後】⑦の復習		
⑧まとめ			【事前】①~⑦の復習		
⑨感情と人格(パーソナリティ)			【事後】⑨の復習		
⑩認知と人格(パーソナリティ)			【事後】⑩の復習		
⑪思考と人格(パーソナリティ)			【事後】⑪の復習		
⑫社会文化と人格(パーソナリティ)			【事後】⑫の復習		
⑬他者理解について			【事後】⑬の復習		
⑭自己理解について			【事後】⑭の復習		
⑮まとめ			【事前】⑨~⑭の復習		
使用テキスト: 必要に応じて資料を配布する			その他参考文献など: 入門人格心理学		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業をしっかりきいてください。また、わからないことがあればどんどん質問してください。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 社会心理学				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
私たちは常に人との関わりの中で生活を送っている。言い換えれば、私たちの行動や心理は常に社会からの影響を受けている。個人と社会の影響過程について、身の回りの日常的問題意識の観点から理解する。					対人関係、リスク管理、意思決定、リーダーシップ	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.		
A 知識・理解力		社会心理学の基礎知識を身に付けている。				
C 論理的思考力		社会の中で生きる人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解できる。				
H コミュニケーション力		情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身に付けている。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %		
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 学習到達度を毎回フィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①授業概要説明:「社会心理学とは」				社会心理学と他の領域との関係についてまとめる		
②自己を知るⅠ:社会的自己とコミュニケーション				クエスト1:社会的自己とコミュニケーション		
③自己を知るⅡ:認知的不協和理論				クエスト2:認知的不協和理論		
④行為の原因を知るⅠ:原因帰属理論				クエスト3:原因帰属理論		
⑤行為の原因を知るⅡ:態度				クエスト4:態度		
⑥「私たち」と「あの人たち」:偏見と差別				クエスト5:偏見と差別		
⑦個人と集団の利益:社会的ジレンマ				クエスト6:社会的ジレンマ		
⑧異文化コミュニケーション				クエスト7:異文化コミュニケーション		
⑨他者への行為Ⅰ:怒りと攻撃				クエスト8:怒りと攻撃		
⑩他者への行為Ⅱ:援助行動				クエスト9:援助行動		
⑪集団から個人への影響:ソーシャルインパクトと権威への服従				クエスト10:集団からの影響		
⑫個人から集団への影響:リーダーシップ				クエスト11:リーダーシップ		
⑬ヒューマンエラーとリスクマネジメント				クエスト12:ヒューマンエラー		
⑭社会的公正と集合行動				クエスト13:社会的公正と集合行動		
⑮実験で学ぶ社会心理学				ポスレベルクエスト		
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な資料は図書館等で自分で入手してください。				その他参考文献など:ロジャーR.ホック(編)梶川達也(監訳)心理学を変えた40の研究[ピアソン・エデュケーション];ローレン・スレイター(著)岩坂彰(訳)心は実験できるか[紀伊国屋書店]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): クエスト型授業によるアクティブラーニングで学びます。心理学理論は、自分の日常生活と結びつけて理解することで生きた知識となります。ぜひ自発的に学習を行ってください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 精神保健				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
精神保健の概要を学び、精神障害についての基礎知識を習得し、認知症予防・支援の基礎知識と技術を習得する					健康、精神障害、認知症、BPSD、認知症予防プログラム	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 8. 9.	
A 知識・理解力		精神保健の基本的な知識を身につける				
B 専門的技術		認知症予防の支援プログラムを計画的に実践していく力を身につける				
C 論理的思考力		精神障害について科学的、客観的に理解できる				
F チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働し、リーダーシップを発揮しながら認知症予防プログラムの企画・開発ができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポート2本(40%×2)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行なう。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第9回と第15回にレポートを提出する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①精神保健への公共保健アプローチ(WHO)				WHOによる健康の概念を調べる		
②精神障害および行動障害の決定因とケア				精神保健に関する歴史的背景を調べる		
③精神障害の概要:統合失調症・気分障害				精神病について調べる		
④精神障害の概要:神経症・心身症				神経症・心身症について調べる		
⑤精神障害の概要:精神遅滞・発達障害				精神遅滞・発達障害について調べる		
⑥乳幼児期・児童期の精神障害および行動障害				子どもの精神障害について調べる		
⑦思春期・成人期の精神障害および行動障害				青年期の精神障害について調べる		
⑧高齢期の精神障害および行動障害				高齢期の精神障害について調べる		
⑨認知症予防・支援の考え方				①～⑧をレポートにまとめる		
⑩認知症予防・支援のハイリスク・アプローチ				認知症予防・支援について調べる		
⑪認知症予防・支援のポピュレーション・アプローチ				認知症プログラムについて調べる		
⑫ポピュレーション・アプローチによるプログラムの企画				プログラムを企画する		
⑬ポピュレーション・アプローチによるプログラムの開発				プログラムを開発する		
⑭ポピュレーション・アプローチによるプログラムの改善				プログラムを改善する		
⑮ポピュレーション・アプローチによるプログラムの評価				プログラムを評価し、レポートにまとめる		
使用テキスト: テキストなし。必要な資料は授業時に配布します。				その他参考文献など:吉武光世(編)はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学―「こころ」の健康をみつめて[学文社]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業計画の前半では、精神保健の概要について講義を行います。基礎知識を習得した上で、後半では認知症予防・支援のプログラム開発に取り組み、アクティブ・ラーニングで学びます。後半では特に、協調性・自発性・リーダーシップなどの実践力が問われますので、積極的に参加し、学習課題にもしっかりと取り組んでください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名: 心理学研究				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 後期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
自らの問題意識に基づいて、人間の行動や心理に関する研究仮説を立て、研究計画を立案し、研究を実践し、結果を報告書にまとめプレゼンテーションを行います。この実践を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける「私」をつくります。					行動・心理、研究仮説、実験・調査、考察、論文作成、プレゼンテーション・パブリケーション	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力	心理学研究の基礎知識を身に付けている。					
B 専門的技術	人に関わる問題について、心理学的に研究する技術を習得している。					
C 論理的思考力	人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。					
D 問題解決力	人間の行動や心理に関する問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。					
H コミュニケーション力	自ら学び、考え、得た情報を的確にまとめ、解りやすく人に説明できる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 50 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 研究への取り組み態度(20%)、得られた成果の論文報告(50%)、研究発表(30%)に基づいて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは第15回に行う。また研究発表については別途行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 研究の進行度に応じて、適宜フィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①心理学研究の進め方、注意事項等についてのガイダンス。				特に指定しないが、研究なので、自らテーマ設定をし、資料収集し、データ収集し、考察し、論文を作成する		
②研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
③研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
④研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑤研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑥研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑦研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑧研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑨研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑩研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑪研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑫研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑬研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑭研究の実践: 問題の発見と研究テーマの設定、研究仮説・研究計画の立案、情報の収集・分析、結果の考察						
⑮論文の作成および提出、研究発表の準備						
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は、自ら収集してください。				その他参考文献など: 「心理学研究」、「社会心理学研究」、「Journal of Personality and Social Psychology」等の学術雑誌		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): これまでに学んできた心理・福祉の知識と技術を総動員して、自ら問題を発見し、研究するアクティブ・ラーニングで学びます。主体的・積極的に問題に取り組む姿勢が研究の質を決定づけます。						

科目名: 生と死の倫理学				担当教員 氏名: 宮島 光志		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	総合選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
この授業では人間の生と死をめぐる倫理問題(告知、安楽死、ターミナルケア、臓器移植など)を検討し、複雑な現代社会で「善く生きる」とはどういうことかを考えます。そして「死に臨む存在」であり共同存在でもある人間に対する理解を深めて、福祉関連の仕事に携わることの責任を自覚してもらいます。					・倫理 ・間柄 ・いのち ・人生 ・人間の尊厳 ・ケア ・死生観	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 10		
A 知識・理解力	いのちの尊さ、死の哲学的意味と死をめぐる倫理的な諸問題を理解する。					
B 専門的技術	利用者のニーズを受けとめ、看取りの場に寄り添うことの意味を理解する。					
C 論理的思考力	何が善であり、倫理的に正しいことであるかを、論理的に(根拠に基づいて)考察する。					
G 倫理観	医療倫理の全体像を理解し、利用者とその家族の人権を守るために、専門職の立場で倫理的に行動できる。					
H コミュニケーション力	利用者の思いに共感し、それを受けとめることができる。それと同時に、自分の考えを利用者やその家族に伝えることができる。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %	レポート: %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: %		
特記事項: 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、ビデオ教材などを用いた事例検討(問題発見と課題解決)を6回、グループ・ワークとして実施します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 小テスト(復習)を4回、グループ・ワークによる「事例検討」とその成果発表を6回、そして最終回に総まとめを実施します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 小テストを4回行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①生と死の倫理学を学ぶ意義:「死を見つめて生きる」覚悟とは?				4月5日	【事後】①の復習(以下【事後】は省略)	
②ガン告知:倫理的な諸問題の概観				4月12日	【事前】教科書25頁から38頁を読む。	
③ガン告知:事例検討(ドラマ教材「ほんとうのこと」)				4月19日	【事前】グループ編成の方法を検討する。	
④インフォームド・コンセント(IC):倫理的な諸問題の概観				4月26日	【事前】教科書38頁から50頁を読む。	
⑤IC:事例検討(ドラマ教材「セルフコントロール」);小テスト(1)				5月10日	【事前】小テストの準備(②③の範囲)	
⑥ホスピス・ケア:倫理的な諸問題の概観				5月17日	【事前】教科書50頁から69頁を読む。	
⑦ホスピス・ケア:事例検討(新聞記事を活用する);小テスト(2)				5月24日	【事前】小テストの準備(④⑤の範囲)	
⑧徳倫理について:ビデオ教材「徳こそ徳の源なのか?」を検討する				5月31日	【事前】配布資料(徳倫理の説明)を読む。	
⑨安楽死と尊厳死:倫理的な諸問題の概観				6月7日	【事前】教科書77頁から90頁を読む。	
⑩安楽死と尊厳死:事例検討(ドラマ教材「春の約束」);小テスト(3)				6月14日	【事前】小テストの準備(⑥⑦の範囲)	
⑪脳死と臓器移植:倫理的な諸問題の概観				6月21日	【事前】教科書91頁から125頁を読む。	
⑫脳死と臓器移植:事例検討(ドラマ教材「ぬくもりの境界線」)				6月28日	【事前】小テストの準備(⑨⑩の範囲)	
⑬出生前診断と障害児の生命権:倫理的な諸問題の概観;小テスト(4)				8月9日	【事前】教科書136頁から158頁を読む。	
⑭出生前診断と障害児の生命権:事例検討(ドラマ「わたしたちの選択」)				8月23日	【事前】⑪~⑬の学修内容を整理する。	
⑮まとめ:生命の誕生と終焉に臨む倫理学と社会福祉				8月30日	【事前】最終テストの準備をする。	
使用テキスト: 小松奈美子『[改訂版]医療倫理の扉—生と死をめぐる』(北樹出版, 2012)				その他参考文献など: 川本隆史(編集)『ケアの社会倫理学—医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣, 2005)、清水哲郎ほか(編集)『人生の終わりをしなやかに』(三省堂, 2012)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業の予習と復習は当然のことですが、特に講義時間内に実施する「グループ・ワーク」(事例検討)にしっかり取り組んでもらいたいと思います。						

科目名： 市民活動論				担当教員 氏名： 宮嶋 潔			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考		
1	2年次 前期	総合選択科目	講義	選択			
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード		
近年、ボランティア活動やNPO活動など、様々な市民活動が活発化しており、今後もますます市民活動の果たす役割は重要なものとなる。本科目では、ボランティア活動・NPO活動の歴史・理念や日本《富山県》におけるボランティア活動・NPO活動の現状や課題について学ぶことを通して、市民活動についての理解を深める。					ボランティア(活動)、奉仕活動、NPO(活動)、市民活動、ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター		
授業科目の到達目標							
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10			
A 知識・理解力		市民活動(ボランティア・NPO活動含む)について、その意義や役割について理解することができる。					
C 論理的思考力		市民活動に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。					
F チームワーク・リーダーシップ		他者と協調・協働して行動できる。					
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。					
H コミュニケーション力		福祉専門職として他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。					
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト： 50 %		レポート： %	発表： 20 %	実技試験： %	その他： 30 %		
特記事項： 「その他：30%」では、授業態度について評価する。 本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッションを活用し、ボランティア活動プログラムの企画を行い、プレゼンテーションを行う。							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第7回と第15回目							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：第7回目と第15回目に実施するテストに評価を付けて学生に返却する。							
授 業 計 画				事前・事後の学習課題			
①オリエンテーション～ボランティア活動と奉仕活動～							
②ボランティア活動の歴史～COS運動とセツルメント運動～							
③日本とアメリカのボランティア活動の違い				演習科目であり、グループワークを中心に行うため事前・事後学習には適さない。			
④日本国内のボランティア活動の現状と課題							
⑤富山県内のボランティア活動の現状と課題～ゲスト・ティーチャーから学ぶ～							
⑥ボランティアセンターとボランティアコーディネーター							
⑦自分のまちのボランティア活動・中間まとめ							
⑧世界のNPO							
⑨日本のNPO							
⑩NPOと法律							
⑪NPOの存在意義とは							
⑫NPO活動の実際～ゲスト・ティーチャーから学ぶ～							
⑬市民活動とは							
⑭市民活動の意義と課題							
⑮福祉専門職と市民活動・まとめ							
使用テキスト： 「ボランティア・NPO用語事典」中央法規						その他参考文献など： 「よくわかるNPO・ボランティア」川口清史，田尾雅夫，新川達郎【編】ミネルヴァ書房	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ボランティア活動に興味や関心のある学生の受講を期待します。							

科目名: スポーツ理論				担当教員 氏名: 本田 由美子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	総合選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
スポーツと運動文化について、その歴史的变化の過程を踏まえて総合的に理解を深めるとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを設計し実践してゆく方法を学ぶ。特にスポーツが健康に及ぼす効果を理解する。				・スポーツ ・運動 ・健康		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 8		
A 知識・理解力		スポーツ文化を歴史的に幅広く理解する。				
C 論理的思考力		運動が健康に及ぼす影響について具体的に理解する。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %		レポート: 30 %		発表: 20 %		実技試験: % その他: 20 %
特記事項: アクティブラーニングの一環として、新聞等のスポーツ記事をファイルし、発表とディスカッションを行なう。その他には、授業と参加態度等を含める。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目と第12回目にレポートを課す。第15回目にテストを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: スポーツ記事ファイルにコメントを加え返却する。テストは採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション・スポーツ体験発表				【事後】スポーツの実施		
②スポーツと健康				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】②の復習		
③スポーツと体力づくり				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】③の復習		
④スポーツの生理学①				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】④の復習		
⑤スポーツの生理学②				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑤の復習		
⑥基礎的トレーニング法①				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑥の復習		
⑦基礎的トレーニング法②				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑦の復習		
⑧トレーニングプログラムの作成				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑧の復習		
⑨スポーツ事故と安全管理				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑨の復習		
⑩運動障害と救急法				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑩の復習		
⑪高齢者の健康と運動				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑪の復習		
⑫運動文化の歴史 ①スポーツの変遷と国際理解				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑫の復習		
⑬運動文化の歴史 ②スポーツの社会的役割				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑬の復習		
⑭生涯スポーツに向けて				【事前】スポーツに関する記事をファイルする 【事後】⑭の復習		
⑮まとめ				【事前】①から⑭までの復習		
使用テキスト: 毎時間プリント配布				その他参考文献など: 「スポーツトレーニングの基礎理論」西東社 「目でみる筋カトレーニングの解剖学」大修館書店		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃から、自分自身のからだを取り巻く状況から、スポーツに関するニュースまで注意して、それらが意味することを考えるように心がけてください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 職業選択と自己実現				担当教員 氏名： 車 吉章	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	総合選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
自己の気づきをしながら、自らの能力と社会でのその活かし方を学ぶ。					自己探求
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 8.	
E 自己管理能力		コミュニケーション実践を通じて自己を発見し理解する。			
F チームワーク・リーダーシップ		グループワーク実践を通じて「積極性」を身につける。			
H コミュニケーション力		ゲーム実践、マナー実践を体験し、社会人としての自覚を身につける。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： %	発表： 50 %	実技試験： 30 %	その他： 20 %	
特記事項： 個人カウンセリング、コミュニケーション実践などを取り入れた授業の中で自分というものを見つめ発見していく。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：主にグループワークを中心とする。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：毎時間毎に「ふりかえりシート」を記入。質問等に関しては次の時に渡す。					
授 業 計 画			日付	事前・事後の学習課題	
①キャリアとは？			4月5日	事後：ふりかえりシート作成	
②受講にあたっての注意事項、自己分析作業			4月12日	事前：自己分析表作成	
③自己発見作業			4月19日	事前：自己理解シート作成	
④コミュニケーション実践(発声、呼吸法など)			4月26日	事前：あいさつ実践(個人)	
⑤コミュニケーション実践(発声、会話テクニックなど)			5月10日	事前：あいさつ実践(グループ)	
⑥コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			5月17日	事前：あいさつ実践(グループ)	
⑦コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			5月24日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)	
⑧コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			5月31日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)	
⑨コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			6月7日	事前：コミュニケーション実践(グループワーク)	
⑩コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			6月14日	事前：外部ゲスト講演	
⑪コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			6月21日	事前：外部ゲスト講演	
⑫コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			6月28日	事前：外部ゲスト講演	
⑬コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			8月9日	事前：マナー実践	
⑭コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			8月23日	模擬面接練習(事後：ふりかえりシート)	
⑮コミュニケーション実践(グループワーク、実践中心)			8月30日	模擬面接試験	
使用テキスト： 講師側で準備			その他参考文献など： みんなのキャリアデザイン(文芸社)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 時間を守る、挨拶、自己紹介などやスピーチテクニックなど文字や映像だけでは理解できない、理解しづらい事を体感してみながら学んでいく授業です。外部からのゲストを招いての講義も予定。					

科目名: 英語コミュニケーション					担当教員 氏名: Richard Curtis	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
For students to be able to hold a simple conversation, and to expand their vocabulary. The course is to be offered in two groups, A and B, according to the level of the students.						Basic English communication
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			Making the best use of what you have learned before plus trying to learn something new will lead to better command of the language.			
F チームワーク・リーダーシップ			Trying the best in playing your role is important in group activities.			
H コミュニケーション力			Positive attitude without being afraid of making mistakes is a MUST in building basic command of English.			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %		レポート: %		発表: 30 %		実技試験: %
						その他: 40 %
特記事項: Others will encompass classroom participation and attitude.						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: Group activities with presentations will be assigned in each period. Schedule for assessment is shown below.						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①Getting to know each other.						
②Likes and Dislikes						
③Relatives						
④Describing people						
⑤Review 1						
⑥Occupations						
⑦The Past tense						
⑧Sports						
⑨Review2						
⑩Country, Nationality and Language						
⑪The Present Perfect						
⑫Prepositions of place						
⑬Review 3						
⑭Describing things and money						
⑮Present Progressive						
使用テキスト: Talk a Lot Book 2(EFL PRESS)					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

Everyone should expect to talk as much as they can. Hopefully we'll have fun, and your English will improve.

社会福祉学科

社会福祉 専攻

2 年

科目名： 情報処理Ⅱ				担当教員 氏名： 中野 慎夫		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	総合科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
近年の医療・福祉の現場において、電子カルテなど急速に情報化が進み、情報化スキルの必要性が高まっている。この科目では1年次に学習した基礎的な知識や活用能力を用いて、より高度なソフトウェアの利用・応用スキルを修得する。					インターネット、 表計算 データベース、 マルチメディア	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 8.	
A 知識・理解力			<ul style="list-style-type: none"> ・Word、Ecel, PowerPointの統合利用を理解する。 ・より高度な情報作成能力を身に付け、活用能力を高める。 ・データベースやマルチメディア処理などの応用スキルを修得する。 			
D 問題解決力						
C 論理的思考力						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： %	発表： %	実技試験： 50 %	その他： 50 %		
特記事項： <ul style="list-style-type: none"> ・上記「その他」では、授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・目標とする活用能力の習得のためには、授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。 						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 授業中後半に課題演習を行う。また授業期間の中間と最後に実技試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 授業中に出す演習課題については提出時に学生の前でチェックする。また実技試験については採点をして返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
① Wordによる文書作成の復習(年賀状の作成など)				【事前】Word教科書を読む 【事後】①の復習		
② Wordにおける書式設定				【事前】Word教科書を読む 【事後】②の復習		
③ Wordによる複雑な表作成				【事前】Word教科書を読む 【事後】③の復習		
④ WordとExcelの結合による文書作成				【事前】Word教科書を読む 【事後】④の復習		
⑤ Excelの基本操作の復習				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑤の復習		
⑥ Excelによる複雑な表作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑥の復習		
⑦ Excelによるグラフ作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑦の復習		
⑧ Excelによる高度なグラフ作成				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑧の復習		
⑨ Excelによるデータベースの作成と処理				【事前】Excel教科書を読む 【事後】⑨の復習		
⑩ PowerPointの復習とアニメーションの利用				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑩の復習		
⑪ Excelを利用したプレゼン資料の作成				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑪の復習		
⑫ イラスト、写真などを利用したプレゼン資料の作成				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑫の復習		
⑬ イラスト、写真などを利用した高度なプレゼン資料の作成				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑬の復習		
⑭ 自分で考えたプレゼン資料を作成する。				【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑭の復習		
⑮ Word、PowerPoint、Excelの応用操作を再確認する。				【事前】Word、PowerPoint、Excelの復習をする 【事後】⑮の復習		
使用テキスト：「できるWord2013」、「できるPowerPoint2013」、「できるExcel2013」(インプレスジャパン)				その他参考文献など： Officeソフトで作る文書ドリル全55題(noa出版) Office活用術(noa出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：授業での演習時間が少ないので、必ず予習・復習を行うこと。						